

授業内容の理解を深めるフィールドワークの試み

社会科教育・張 貴民

1. 授業の概要

人文地理学は自然地理学とともに系統地理学を構成している。本講義は、人間の諸活動と環境との関係を中心に、事例地域の分析を通じて現代人文地理学における様々な課題にアプローチするものであった。

そして、①人文地理学の基本概念を理解すること、②様々な人文事象について主題図を用いて理解したり表現したりすることができること、③人文事象の考察を通じて地域の特質や空間的構造を理解することができること、を到達目標とした。

授業のスケジュールは次の通りであった。第 1 回ガイダンス、第 2 回人文地理学について、第 3 回人文地理学の研究法 (1)、第 4 回人文地理学の研究法 (2)、第 5 回フィールドワークの実施、第 6 回農業の立地、第 7 回フィールドワークのまとめと発表、第 8 回工業の立地、第 9 回商業の立地、第 10 回都市の立地、第 11 回都市の内部構造、第 12 回グループ発表と討論、第 13 回食と自然環境とのかかわり、第 14 回服と自然環境とのかかわり、第 15 回まとめ・期末試験。

本年度の授業は講義内容に関連して、学生を 2 班に分け、休日を利用して 2 回フィールドワークを実施した。調査内容についてそれぞれの学生にまとめてもらい、そしてグループ単位で発表内容を再構成して発表してもらった。発表内容について参加者全員に質問票を提出させた。

2. 授業評価の方法

この授業の履修登録者数は 30 名であった。社会科教育専修、人間社会デザインコース、教育学専修、教育心理学専修、保健体育専修、家政教育専修、スポーツキャリア開発コースからの学生によって構成されている。

授業評価について、自由記述方式で学生に意見やコメントを求めた。2010 年 1 月 22 日 (金) 5 講目の授業中で実施した。出席した受講生から次の意見などが提出された。

3. 授業評価の結果

学生のコメントを受け付け順にそのまま掲載する。次年度の授業改善に生かしたい。

授業のリズムも良くて、プレゼンもわかりやすいので、よく理解できる授業であると思う。また、フィールドワークなどを行ったり、実践的に学ぶ事ができている(GK)。

今回授業を受けてみて、自分は社会科専修ではないので難しいのかと思ったが、パワーポイントなどで分かりやすく授業が構成されていた。双方向性もしっかり保たれていた。フィールドワークなども自分は初めての経験だったのでとても新鮮な活動で、地理に関しての知識が深まるよい活動だったと思う(匿名)。

人文地理 I は実際にフィールドワークに行くことで、松山市の身近な建物の立地条件から、どのような意図で立地されているのか知れてよかった。難易度も勉強すれば理解できるものなのでやりがいがある。張先生の授業は自分が参加しているという実感が湧きやすく、とても有意義なものになった(TT)。

教材は適時配布され、必要な説明がなされている。学生が実際に作業を行うことが多く、成果を自分自身でも把握することができる(KY)。

授業はとても興味のある内容で意欲的に取り組むことができる。課題などの説明のときに何をすればいいのか困るときがあるが、質問をすれば快く教えてくれるので助かる(MT)。

張先生の人文地理のご講義では、今日までの地理学者達の理論に基づいた資料等が配布されたり、非常に興味深い講義だった様に感じました (RS)。

張先生の人文地理 I の授業を受けている中で、地図を見ることや、なぜ建物がその場所にたてられたのかということが自然にできるようになってきた。このような事は、もし将来自分が店を建てるときや、家をたてるなどにととてもためになると思う。またフィールドワークも勉強になったことは間違いない(匿名)。

フィールドワークを行い、実際に自分の目でみてみることによって、学習内容が非常に理解しやすくなった。普段の講義でも、考えたり作業したりする時間をしっかり確保してもらえ

ので、「分かった」という意識を強く持つことができる (MH)。

この授業では、先生が丁寧に学習内容を教えてくれるところが良いと思う。課題もある程度出されるので学習する意識が高まる。改善するところとして、課題を出すときに課題内容を明確にしてほしい。どのような内容で、どのような形態で、どのような方法で提出すればいいのかよく分からない時があるからである (YK)。

張先生の授業は今回が二回目だが、フィールドワークをしたり、回帰分析では計算をしたりと、人文“地理”からはイメージしていなかったような内容もあり、面白かった。しかし、授業の中で先生が言っていることが分からないことが多々あり、授業が分からなくなることがある (KY)。

今回の人文地理 1 の特徴としては、power Point などのソフトを用いて、スクリーンに図を写し、効果的な板書がされていたことが挙げられる。地理の場合、空間を扱うため、情報機器の活用は必須であり、三次元での図の把握は、知識を定着させることを可能としていた (MK)。

人文地理 I の授業は難しいところと分かりやすいところがあった。例えば誰々のモデルでスライドだけの説明になると難しい。しかし、実際に黒板の前で磁石を動かしながら商業の立地論を考えることは分かりやすかった、おもしろかった。フィールドワークを含め、活動多いため授業自体は意欲的にとり組める (TN)。

FW 実施を生徒の予定を聞きながら設け、休日にも関わらず数時間コースでじっくり丁寧に楽しく行って頂きました。実際に立地を観察することで興味が湧き、その後の授業内容にも関連付けて考えていくことができました。また、宿題に PC でグラフを作るものもあり、数学的な内容が用いられるのも楽しかったです (KS)。

自然地理を受けた後で大変期待していたのだが、なかなか好きな分野である。足を使ったフィールドワークや、モデルに基づいた実践等、地理への入門として適切であると思った。教員の張先生も授業を受けて、理解を促すように毎回説明してくれ、後期の授業の中では楽しみなもの 1 つである (M,M)。

私の中の地理というと、つまらないというイメージだったが、この講義は実際にフィールドワークに行ったり、講義の中でも立地論ゲームをしたりと、地理というものは自分を取り巻く非常に身近なものであるということが分かり、

地理の奥深さ・面白さを感じるができるようになった(匿名)。

人文地理の授業においては、立地についての学習を行っているが、例をだして考えることができるので良いと思われる。また、難易度については、決して簡単なわけではないが、ポイントを絞った授業が毎回行われているので、受けていて楽しめる授業になっている (M.S)。

実際にフィールドワークに行き目にしたことが、後から授業で学んでいくうちに「あれはこういう理論に基づいていたのか」と納得していけるので良かった。頭から答えを教えていく講義ではなく、みんなで意見を出したりして答えを探して行く授業方法は、時間がたっても結構頭に残っている。課題を期日までに一生懸命やってきた分は、評価してほしいと思う(やっていない人がたくさんいてびっくりした)(SA)。

この授業の難易度については、大変分かりやすいと思う。例を用いた内容の説明によってイメージがしやすく、線上に磁石を置いて考えた商業立地論は理解しやすかった。しかし、様々な形成モデルの説明で中心となるホテルモデルは分かったが、さらっと流したモデルについては頭に残りづらかった (NK)。

授業の内容は分かりやすく、進行もちょうど良いスピードであった。また、フィールドワークで実際に街を見て説明を受けるのはとても有意義であった。授業時間外のグループワークでは、専修などが違う学生が混じっている、バイトやサークルが入っているなどの理由で時間を合わすのが難しく感じられる (TR)。

この授業は教員が学生に質問することが多く、教員と学生の距離が小さいように感じる授業だった。またフィールドワークがあり、授業で触れた内容を具体的に体感する事ができて充実したものだ。スライドショーで授業を進める際にメモをとる時間が短くメモしきれないことがあったためもう少し配慮してもらいたいと思ったことがあったので、改善していただけたらいいと思う (MA)。

説明がわかりやすかったです。ゲーム感覚での商業立地論の説明はとてもおもしろく、実家に帰った時、家族に教えたくまりました。始めは他の地理系の授業との違いがよくわかりませんでした。講義を受けていくうちにつかめるようになったと思います (IT)。